

老人福祉事業における経営

牧野 義明

介護保険導入後、社会福祉法人を始めとして当社を含めた老人福祉の民間事業体、NPO等の非営利組織では「経営」が求められるようになりまし。

介護保険導入以前は、社会福祉法人では「運営」という形で良かったのですが、導入後は、老人福祉業界は「経営」という考え方をしているかないと生き残れない業界となつています。社会福祉法人でもこの「運営」から「経営」という考え方に、「措置」から「契約」へと変化したのと同時に、うまく方向転換出来ていない法人は、「措置時代」の古い体質を引きづっている」といわれてます。例えば、利用者獲得に以前は黙っていても行政主導で得られていたのが、自ら獲得のための営業活動が必要となつていきます。

経営といっても単なる利潤追求という考え方のみではなく、より広く「理念や思い」の実現に向けての諸活動という考え方に変わることで求められています。

老人福祉事業所における経営は「何をなすべきか」という課題に「社会・地域における福祉の充実・発展という使命を果たすこと」であるので、以上のような経営手腕が求められます。老人福祉の事業経営をしていく上で、以下の四つが必要となる事柄として考えられます。事業に携わる「人」、提供する「サービス・モノ」、人的資源や物的資源を調達するために必要な「お金」、そして事業内外の状況を判断材料とするための「情報」、といったものを最適な状態で確保しておくことが必要といわれています。

また、老人福祉を目的とする事業は、その事業を行うにあたっての「思い」が大切なこととしてあります。そして経営者から発せられたその「思い」が他の役員、職員をはじめ、地域の方々、行政関係者といった組織内外の人々に伝わる必要があります。職員に対しては、「思い」を伝えるための方法や目的を達成するための働きを最大限に発揮し得るテクニック等、提供するサービス等については、利用する方々に限りある資源の中から、安全・



性とは「福祉倫理」「専門知識」「専門技術」の三つがいわれています。この専門性は、個人的資質を超えてあるものなので、社会福祉の従事者には、社会福祉援助者としての専門的な人間として、自己形成していくことが必然的に求められてくることとなります。

一般的に社会福祉従事者というと、この「専門性を兼ね備え、かつ、より人間として形成された援助者」としてみられる、ということがいわれています。

新人研修を受けて

(調理) 大西 富子



平成二十九年十月十一日午前九時三十分から新人研修を社長さん始め五人の講師の方から講義を受けました。

社長さんからは、「ケアサービスとも」の命名の由来から、新良さんの家移転、社内規則、事業展開など夢のあるお話をされました。牧野さんからは、テキストの中の就業規則を読んで下さい。又人に流されない考え方を持つよう、疑問があればご相談ください、と結びました。川合さんからは、心理テストならぬ記入シート、

安心なサービスを提供するための方法、そして最大限に「満足してもらえ」あるいは「よかった」と体感してもらえサービスをたえず追求すること、会社の理念を実現し、これらを組織で維持・継続していくためには、資金が必要となります。それはどれだけの額か、それを調達するためにどうすべきか、目標を設定し、毎月、毎年の状況がその目標に近づいているのか、近づいていないとすれば、どう対応し、どのような戦略をたてていくべきなのか等、ということが経営管理していく上で必要な事柄である、といわれています。

老人福祉事業を実現していくには経営者の「思い」やその事業体の「理念」を達成するための方法論として、先に述べた四つの事柄を適切に経営業務管理していくことが求められます。

当社も老人福祉事業経営事業体として、理念の実現に向けて適切な経営事業体として発展していけることを願っております。

社会福祉援助の専門性



専門職としての社会福祉援助者には、職務を責任をもって遂行するために、専門的な力量、見識等が求められます。社会福祉援助者の専門

がコミュニケーションの場にもなります。そういった場を提供できる様、寄り添った介護をしていきたいと思えます。

新人紹介

- ☆フランシスコ・ライカ・ディア あおいの家 介護員
平成二十九年十二月二十六日
- ☆高田 希美子 介護支援専門員
平成三十年一月一日
- ☆青山 猛 訪問介護 訪問介護員
平成三十年一月一日
- ☆矢板 典子 グループホーム 介護員
平成三十年二月一日
- ☆成瀬 敬子 良さんの家 介護員
平成三十年一月十七日
- ☆佐藤 里美 訪問看護 訪問看護員
平成三十年二月一日



新人職員の声

(GH) 遠藤 桃子

「とも」で勤務して八カ月が経ちました。今まではデイサービスで勤務していたので、グループホームの様に生活されている場で働くという事が初めてだったので、どの様な介護をどこからどこまですればいいのかわかりませんでした。しかし、一つ一つ丁寧に仕事を教えて頂き、又職員の皆さんが元々あるプログラムからその日の様子で臨機応変に対応していく姿、全てが勉強になります。

私の主な業務は入浴介助です。入浴の意義は、清潔保持、血液の循環が良くなる事で新陳代謝を促進させる、褥瘡や感染症を予防する等です。私は、短時間の勤務ですが、入浴する事でわかる心身の変化も沢山あると思っています。限られた時間から色々気付ける様、心掛けていきます。

また、個別対応することで、入浴



編集後記

インフルエンザが流行しています。「手洗い」「うがい」の励行で感染予防に心がけて下さい。風邪の症状が出たら、医師に受診して、インフルエンザかどうかの確認をしましょう。

